

書評：貝塚爽平・小池一之・遠藤邦彦・山崎晴雄・鈴木毅彦編．2000．日本の地形4 関東・伊豆小笠原．x + 350 pp．ISBN 4-13-064714-8．東京大学出版会，東京．本体価格6000円．

全7巻シリーズのうちの1巻である。このシリーズ『日本の地形』は、「百年を経過した日本の地形の調査・研究を総括して、環境の基盤をなす地形の性状と生い立ちを7巻の地形誌として刊行する」ことを趣旨とし、「自然史と人間活動が刻まれている日本の地形の姿とその形成過程、すなわち地形発達史をこの列島に住む多くの人びとに知っていただき、これからの地形環境の保全・創成や防災や土地利用に、また風景にひそむ歴史を読むのにも役立ててほしいと願って企画されている。

この第4巻目の対象については、「関東地方と伊豆・小笠原弧の地形を対象とする。関東地方は日本最大の関東平野とその西側・北側をとりまく山地、および南側の三浦・房総半島の丘陵ないし低い山地から構成される。関東平野は台地・低地と周辺の丘陵からなるが、台地の占める面積が広い。西側・北側の山地には高度2000 mをこえる火山も多い。海岸と大陸棚および内湾海底の地形も、東側(太平洋側)の鹿島灘方面と中央部の東京湾と南側の相模灘方面では違いが著しい。さらに、一大島弧である伊豆・小笠原弧の島々や海底地形の記述も加わるから、この巻が対象とする地形はまことに多彩であり、かつ日本の典型といえる地形が少なくない」と、まえがきにとっても簡潔にまとめられている。

同じくまえがきで注意をひくのは、「放射性炭素年代値の暦年代への較正の必要性が話題となっている。加速器技術を取り入れた新しい年代測定法(AMS¹⁴C年代)の導入などの進展により、高精度の¹⁴C年代測定が可能となってきた。得られた¹⁴C年代は、樹木年齢、サンゴや年縞堆積物などの年代より導かれた暦年代 - ¹⁴C年較正曲線を用いて較正することが可能になった。(中略) 編年・対比上重要な広域テフラの降下年代(K-AhやATなど)については暦年代較正值を提示し、本文中の関係する年代値は、編者の責任において可能な限り較正した」とするところである。本巻が2000年11月に刊行され、まえがきが10月に書かれており、2000年8月に国立歴史民俗博物館で開催された日本第四紀学会大会のシンポジウム「21世紀の年代観 炭素年から暦年へ」とそのときの「2000年佐倉宣言」に即応するかたちとなっている。教科書的な刊行物に、一貫して暦年代を取り入れようとしたのはこれが初めてではないだろう。

本巻は、1 総説、2 関東北部の山地と火山群、3 関東西部の山地と箱根火山、4 大磯・三浦・房総の丘陵と海岸・海底、5 関東平野と周辺の丘陵、6 伊豆諸島と小笠原諸島、7 関東の地形発達史の7つの部分からなっている。まえがきに述べられたとおり、関東・伊豆小笠原の地形の特徴に則した構成であり、細分される記述単位も、火山地形や丘陵・

台地地形の単位からなっていて、地形単位と記述単位の対応が明瞭であるので、理解しやすい。まさに日本の地形のあらゆる典型がこの対象地域に集約しているからかも知れない。

最初の総説と最後の関東の地形発達史がよくまとまっていて、これまでの成果と今日的な課題を理解するのに大いに役立つ。関東平野での地形および地形発達史の研究は、いわば日本の標準をつくりあげる作業でもあった。次から次へと生み出される新しい研究方法がいち早く試されてきたという歴史をもっている。このような歴史を理解するにも相応しい。また、古地磁気層序および酸素安定同位体比変動にもとづく海洋同位体層序を編年基準として地形発達史の成果がまとめられているのも関東ならではのことである。

日本の地形と地形発達史の研究の中心でありつづけた地域であるからこそ、その新しい地球史における変動史との対応が分かりやすいのが大きな特徴である。その意味では、他の巻で対象とされる地域を理解するときにも本巻を横に置いておく必要のあるものであろう。

ただ、この巻も、このシリーズ全体も、地形を対象にしていることを念頭に置いておかなければならない。地形発達史を読み解くために地質や古生物のすぐれた成果がふんだんに取り入れられてはいるが、わたしたちが古生態系・生態系、古地理・地理と日常言っている世界が、地形という一要素に着目して述べられているにすぎないとも言える。節々に複数の地形要素間の相互関係・相互作用が読み解かれてはいるものの、生態系を構成する多様な要素との相互関係・相互作用と、その歴史にまではまだまだ踏み込んではいない。これは、本巻、本シリーズの特徴なのであろう。「自然史と人間活動が刻まれている日本の地形の姿」を描き出そうとしている割りに、人間活動の読み解きが意外に乏しいのもそのためかも知れない。

すぐれた書であることに違いはない。B5判、350頁の圧巻であるが、教科書としても好適である。広く勧めたい。

(辻 誠一郎)

[付記]

本シリーズの第1巻である、米倉伸之・貝塚爽平・野上道男・鎮西清高編．2001．日本の地形1 総説．376 pp．ISBN 4-13-064711-3．本体価格5800円．が本年3月に刊行されている。日本の地形研究史をはじめとして、日本列島の大地形と地形区分、地質、地形形成環境、山地地形、火山地形、平野地形、海底地形や、自然災害と地形の人為的改変、および地形発達史が概観されている。

(能城修一)